

Iowa 大学留学（帰朝報告）と現在の活動報告

山下一太

2017 年 8 月から 2018 年 7 月までの 1 年間、米国 Iowa 州 Iowa city の University of Iowa Hospital and Clinic (UIHC) ・ Orthopedics department に留学させていただきましたのでご報告いたします。Iowa 州の特別な医師免許を一時的に取得し、アメリカ整形外科学会 (AAOS) の重鎮である Dr. Weinstein の下、Visiting clinical physician という立場で臨床業務に参加しながら様々なことを学ばせていただきました。外来では、見学だけではなく、患者さんとその家族に問診を取り、自分なりの clinical decision を Dr. Weinstein や他の resident にプレゼンします (写真 1)。手術室では、第 2 助手として、主に小児側弯症手術に参加させていただきました。Dr. Weinstein はその技術のみならず、教育者としても素晴らしい方です。第 1 助手はまだ経験が浅い、rotation 中の junior resident なので、Dr. Weinstein は逐一、手術手順を丁寧かつスピーディに教育していました (写真 2)。また患者とその家族や他の医療スタッフに対する振る舞いも紳士的で、人間的にも模範となる、まさに教科書のような先生だと思いました。

日米の医療現場の相違として感じたことについて述べます。医療技術自体は日本も決して負けていない、むしろ勝っている部分が多いのではないかと思います。医療システムは米国がはるか先を行っていると感じました。外来業務や処方が可能、そして全身麻酔をかけることができる多くの Nurse practitioner の存在、院外からでも遠隔操作可能な音声認識機能の電子カルテなどはその最たる例でした。何より、朝 6 時から業務開始し、昼間は猛烈に仕事をして、遅くとも夕方 6 時までには全ての業務が完了し、帰宅後に家族とゆったりと有意義に過ごす。この life work balance を top から resident、学生までが徹底していることが素晴らしいと感じました。文化の違いもありますが、ようやく働き方改革がクローズアップされている日本もぜひ取り入れなければならないと思います。また、稼ぎ頭の整形外科医になりたいと思っている学生が多く、rotation 中の学生が整形外科スタッフへ自分を売り込む姿が印象に残っています。優秀な学生は在学中に JBJS-Am に論文が accept されました。

Clinical visiting fellow として半年経過したころ、Dr. Weinstein の group の research leader の女性に「research にも参加して、何か論文として形に残したい」とお願いしたところ、当初は「それは research fellow の仕事だから」とやんわり断られていましたが、日本から取り寄せた徳島藍のストールをプレゼントしたところ、あっさり「Would you like to join us, Kazu?」と参加が認められました。まずは自分が外来担当した、Chronic recurrent multifocal osteomyelitis (CRMO) 患者の case report を書かせていただき、J Orthop Sci に accept されました。続いて、小児 1000 人以上の big data を用いて、欧米で主流の Hand bone maturity score (手の X 線写真で骨成熟度を判断する手法) と従来の Risser sign や Y 軟骨での骨成熟度の相関関係について調査しました。Dr. Weinstein の下で勉強させていただいた証として

形に残るものができて、よかったです。ただ、それ以上に貴重だったのは、知り合った resident や各国からの留学生たちとの繋がりです（写真 3）。また各診療科や研究機関に在籍する日本人医師との繋がりも大きな財産となりました。

生活面について。私は妻と子供 3 人（中 1、小 4、小 2）を連れて留学しました。子供はそれぞれ現地校に入りましたので、当初は当然ながら戸惑いが多かったのですが、それぞれがいい出会いに恵まれ、1 年で大きく成長することができました。次女はフィギュアスケート、長男は野球を通して言語、文化の壁を乗り越えました。特に長男は、数チームのトライアウトを受けた中で合格したチーム、Wild Sox がコーチ、family 共に素晴らしく、最終的に Iowa 州の state tournament で優勝することができました（写真 4）！ キャッチャーとしてチームをまとめるまでに成長し、親子でとても良い経験をさせてもらいました。来夏から Wild Sox family が順番に徳島に遊びにくることになっています。一方、長女は現地の junior high school で大人びた女子の同級生になかなか馴染めず苦労しました。親としてもとても心配しましたが、得意の絵画をきっかけに徐々に友人を増やし、最後は「Iowa に残りたい」と言ってくれるまでに、現地の生活を楽しむことができるようになりました。休暇には家族でたくさんの National Park に行くことができました。いずれの旅行も全て Car trip で、安い Motel に宿泊して自炊するような貧乏旅行でしたが、家族みんなの一生の記憶に残る、最高の思い出がたくさんできました（写真 5）。

最後に、このような機会をいただき、医局、同門の先生方に深謝いたします。今後の人生後半に向けて、最高の時間を過ごすことができました。帰国後は大学脊椎班スタッフとして臨床業務に、学会活動に、非常に充実した毎日を過ごさせてもらっています。忙しい毎日で、米国での 1 年間がまるで映画でも観ていたかのような錯覚に陥ることがありますが、経験したことを還元すべく、力強く前に進んでいきたいと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。

写真 1 My last clinic day with Dr Weinstein and cool residents



写真 2 At operation room with Dr. Weinstein and a junior resident



写真 3 International Christmas party at my condominium



写真 4 We got a championship of Iowa state baseball tournament (U10)



写真 5 My memorial snap at Glacier National Park

